

# 蘆花恒春園の昔と今



## 蘆花恒春園開園の経緯

開園の経緯は、青山高樹町で借家住まいをしていた文豪徳富蘆花が、土に親しむ生活をしたと武蔵野の豊かな自然が広がるこの地に、1907年(明治40年)2月、40歳の時に移り住み始めたのがきっかけです。蘆花は、1927年(昭和2年)に療養先の群馬県伊香保で亡くなるまでここで暮らしました。蘆花が亡くなって10年後、この地の旧邸すべてを愛子夫人は当時の東京市に寄付し、それを受けて市は旧邸地を「蘆花恒春園」と名付けて保存、周辺を公園として整備し、1938年(昭和13年)に開園、一般公開を開始しています。

## 現在の蘆花恒春園

徳富蘆花の『みみずのたはこと』に出てくる当時の風景は、その後の市街地の発展により変わってはいますが、現在でも公園内の雑木林でその一部をしのぶことができます。

現在の公園地は、開園当時と比べ蘆花の邸地を公園として開園したものに、その後南側、東側に園地を拡張し、開園当初は約1.3haでありましたが、現在は約8.0haと約6倍に拡張されました。歴史的な、また日常のレクリエーションの場として地域の方に親しまれています。

## 蘆花恒春園の名前と由来

蘆花恒春園の蘆花は、徳富蘆花の蘆花から来ています。「恒春園」という名前は1918年(大正7年)に蘆花によって付けられたものです。その由来は『みみずのたはこと』の中で記されています。



台湾の南に「恒春」という地名があり、ある時その恒春に蘆花の農園があるという噂が起こり、そこで人を使ってくれないかと頼まれたという。結局台湾の恒春に蘆花の農園は無かったのですが、“縁起が良い”からと、「永久に若い」という意味も込めて、住居の名前を「恒春園」として名付けられたものと言われています。

花の丘友の会が整備している花壇では、季節ごとに様々な花が咲いてとても綺麗だよ！！



## 蘆花まつり



蘆花まつりは、蘆花恒春園内で行われる毎年1万人以上が来場する人気のおまつりです！地域の団体による楽器演奏や謎解きイベント、各種模擬店が立ち並びます。



粕谷  
上祖師谷  
地域  
しんぶん

122号

(年2回発行)

2024年(令和6年)  
7月15日

上祖師谷地区  
ミニコミ  
編集委員会  
事務局  
上祖師谷まちづくり  
センター

わきみず

上祖師谷地区ビジョン

音楽と花と文学と

笑顔があふれるまち

～粕谷・上祖師谷～



芦花公園花の丘友の会で  
育てているひまわりだよ！

鳥山地域キャラクター  
「からびょん」

